

農家の困り事 創意で解消

営農技術 ²⁰¹⁸ アイデア大賞

日本農業新聞は、農家が考案した独創的な営農技術や効果的な営農技術をたたえる「営農技術アイデア大賞」で、2018年の大賞1点、優秀賞3点を決めた。

大賞には、山梨県韮崎市のクビド・ファームが開発した「スマートフォンでブドウの房を撮影し、摘粒時に適切な粒数を判定できるアプリ」(5月6日付総合1面)を選んだ。情報通信技術(ICT)を活用し、果樹栽培の省力化につながる点が評価

された。

優秀賞は、熊本県玉名市の倉野尾英樹さん(53)の「ハウスカーテン用のハンドルを利用したトマトのつる下ろし装置」(8月3日付総合営農面)、千葉県茂原市の三宅信夫さん(79)の「一輪車支持ベルト」(2月13日付総合営農面)、北海道北見市の今村幸雄さん(63)の「収穫機に設置する巻き込み防止カーテン・ステップ板の改良」(8月31日付総合営農面)とした。

営農技術アイデア大賞とは

日本農業新聞の紙面で、**するため2012年度に** 紹介した農家のアイデア **設計した。7回目**の今回 **識者で審査した。** **は、18年1〜12月の全国** **で優れた技術を選び、** **版・ブロック版 都道府** **農家のものづくりを表彰** **県版に掲載した記事49点** **良普及支援協会会長)**

天羽弘一氏(農研機構
・農業技術革新工学研究
センター次世代コア技術
研究領域研究領域長)
水野喜徳氏(全国農協
青年組織協議会会長)
内田英憲(日本農業新
聞編集局局長)

優秀賞

一輪車支持ベルト

腕の負担減 災害時にも

■千葉県茂原市三宅信夫さん(露地野菜農家)
70歳を過ぎて農作業を始め、一輪車を1日使うだけで腕がつかれた。自分のために開発したものだが、災害時のボランティアの方々も苦労しているだろうと、思い、市の社会福祉協議会などにも提供した。アイデアが認められてうれしく思う。

読者には定価5800円を、送料込み4500円で

提供する。ファクス0475(34)3855に申し込んでほしい。

▽技術の概要

一輪車の持ち手に付けた金具と、肩に掛けるベルトをつなぎ、両肩に均等に重みを分散して腕の負担を軽くするもの。

片側ずつ腕を通したベルトを胸の前の金具でつなぐ仕組み。背中側はつながっていないので、一輪車を前に傾ければ積み荷を降ろせる。着脱も簡単にできる。左右の持ち手をつないで腰の位置にもベルトを設置し、坂や段差でも体で支えられるようにした。



ベルトを着けて一輪車を持つ三宅さん(千葉県茂原市で)